

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	(有)ユートピアアットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	令和5年10月28日	評価結果市町村受理日	令和6年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=0197400021-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染症の5類移行に伴い、御家族との面会や外出を可能な範囲で積極的に勧め、散歩等外に出た際はご近所の方々と挨拶を交わして頂き、地域の一員である事を感じて頂けるよう工夫をしている。当ホームは道央自動車道深川インターに近く、遠方のご親族様に面会にお越し頂くのにも都合がいい。日常的に日中はデイルームで塗り絵をはじめ、楽しんで過ごして頂くための工夫をしております。又、市内各医療機関と連携して、体調が思わしくない様子がある場合は迅速な通院が出来る体制を整えており、安心して過ごして頂けます。窓から見える景色は、音江町から市内に向けて眺望が開けていて季節の移り変わりを感じてもらえます。グループホームの特性を最大限生かし、家族的な雰囲気の中、穏やかな日常を過ごして頂けるよう工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、道央道深川IC、国道12号線からも近い交通の便が良い、音江地区の閑静な住宅街にあり、近くには郵便局、商店、公園、道の駅があり、深川市内まで見渡せる土地が広がる静かな環境にある。建物は鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホームがあり、1階に介護付有料老人ホーム、3階は会議会場や倉庫に利用し、災害時は近隣住民の避難場所としても指定されている。2階中央に2ユニットの共用空間と食堂が隣接し左右にそれぞれの居室を配した間取りとなっている。居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、明るい室内は、ゆったりと過ごせるようにソファが配置され、ソファに寝転んでテレビを見たいという利用者のために、テレビを見れる場所を2カ所設けるなど利用者が快適に過ごせるよう配慮している。利用者はラジオ体操を行ったり、ぬり絵、計算ドリル、縫物を楽しむなど居心地よく過ごしている。利用者は公園や住宅街を散歩し地域の人と挨拶を交わし交流に努めている。現在も獅子舞が事業所にも来所して利用者とふれあう恒例行事は継続されている。利用者の日常の様子をメールで伝えたと共に運営推進会議開催時には議事録を送付し、質問や意見等を得て運営に反映させている。新型コロナウイルス感染症の位置づけ変更(5月8日)以降面会を再開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を目につく場所に掲示し、意識の共有を図っている。	「家庭的で温かな雰囲気を提供します」など4項目からなる事業所理念、介護理念を各ユニットに掲示し、会議等で話し合っ職員で共有しケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響があり、地域(町内会)の活動自体が無いが、運営推進会議への参加を促し、ご意見を頂いている。	町内会に加入しているが、コロナ禍の影響もあり町内会活動も中止している。利用者は散歩時に地域住民と挨拶を交したり、夏祭りに獅子舞が町内を練り歩き、事業所玄関前に来訪し利用者と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ具体的な事例は無いが、施設の見学等、必要に応じて実施している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表として、町内会長や民生委員の方を会議にお招きし、ご意見を賜り普段のケアに生かすべく各職員と情報を共有し、実際のサービスに反映すべく取り組んでいる。	2ヶ月に1回、市職員、町内会長、民生委員、利用者、家族等が出席して、活動報告、事故報告などを行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。家族には議事録を送付し、質問や意見等を得て職員で話し合い、運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課をはじめ関係各所と接触して状況を把握して頂いている。	市高齢者支援課とは申請・報告をはじめコロナ禍関係で指導・助言を得ている。身寄りが無い利用者を受け入れていることから、生活保護係との連携も密である。運営推進会議には市職員が参加し指導助言を得ると共に、市主催の研修会に参加し協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員数の不足から、理想の実現に遠い現状を認識しながら、定期的なカンファレンスにより、身体拘束の解消に向けて、その可能性を探っている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回定期的に開催し、内部研修を実施するなど身体拘束をしないケアへの理解を深めるよう努めている。管理者の退職などがあって今年度2回のみ開催となっている。身体拘束は緊急やむを得ない場合は扶養者等に通知し了解を取ると共に介護記録に記載することとしている。玄関の施錠は防犯や感染防止の目的で行われ、ユニットへの入り口は1日中施錠している。	身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上開催するとともに、その結果について介護職員その他従業員に周知徹底を図ることが望まれる。 (身体的拘束等の適正化の推進・厚生労働省)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止のための集まりを設けて、職員各自より忌憚のない意見を話し、お互いに評価し合い虐待事案の防止に努めております。			

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて毎日の申し送り時に話題にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改定の際は十分な時間的余裕を持ち文書にして或いは直接問い合わせに応じ、ご納得頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議上で、または通院結果報告時に頂いた要望や意見は、直接各職員に伝えケアに反映させている	毎日の会話などから利用者の意見、要望の把握に努め、家族等の意見、要望は、利用者の日常の様子をメールで伝えると共に面会時や運営推進会議開催時には議事録を送付し、質問や意見等を得て、又、電話等で聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時聞く機会を設け、必要に応じミーティングを開き意思の統一を図っている。	管理者は、日々の業務の中で聞き取りを行ったり、スタッフミーティングで意見・提案を聞いている。又、必要に応じ個別面談を行っている。管理者は働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営法人の担当者と緊密に連絡をとって、職員からの要望を伝え、職場環境の整備に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無理のない就業環境を現場に提案し、新入社員の試用期間には時間を掛け、既存の職員より丁寧な指導を行うように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催されるケア研究会等の集まりに、出席出来る体制を整えるため尽くしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くを求めずまずは本人の話を傾聴して、不安の解消や職員との信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に初期は頻繁にご家族にメール等で日常の様子を報告して不安感や不満の解消に繋げるよう工夫している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に十分な機会を設けて生活背景を探り得た情報を活かすべく対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決まった仕事の合間を活かし一緒に座るなどして、関係性を深めている、その際には周囲に居る他の利用者様にも話しかけ会話する機会を作ることを心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折りに触れご家族様と会話し、入居前の状況などお聞きして具体的にどういった支援をするか説明する		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容美容室があれば、出来る限りその利用に協力する	月1回の訪問理美容や、利用者が馴染みの理容院への送迎、買い物の付き添い、又、家族と一緒に買い物や外食、お墓参りに行くなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特にデイルームで過ごされる際は楽しみごとに皆が参加出来るように働きかけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に移る事があっても連絡が出来る雰囲気作りはしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の嗜好は出来る限り把握に努めているが、全てに応じる事は不可能なので、都度説明し納得してもらうよう対応している	利用者ごとの担当職員を配置し、日々の会話や動作、表情、家族からの情報などから希望や意向に添うように努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。得た情報は申し送り時に口頭で伝えると共に申し送りノートを活用して職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に時間をとり傾聴するほか医療介護情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話を通して自室内での過ごし方の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成担当者だけでなく職員各自が感じた事柄を事ある毎に共有する機会を持っている	利用者ごとに担当職員を配置し、モニタリングを行い、担当職員、利用者・家族の意向を反映させて、短期2ヵ月、長期1年毎に介護計画を作成し家族への説明と同意を得ている。利用者の状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録するためのケースノート用意して職員が自分の気づきを記録できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事には限りがあるので過剰な支援に繋がらない様配慮しながら進めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の代表たる町会長や民生委員との関係の維持に努め、協力を仰げる雰囲気を作る事に注力している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を含め受診時に医師の判断を仰ぎそれを実践するべく努めている	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診できるよう支援している。職員が同行し、利用者の日々の様子を医師に伝えている。結果は電話又はメールで家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に看護師と打ち合わせして、適切な診察に繋げている		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの利用者様が市立病院を定期的に受診しており、都度本人の様子を医師看護師にその都度普段の様子含めて情報を提供している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診の都度結果を家族に報告しており、入院前から予測出来る事態について説明して取り得る手段について情報を共有する	入所時に利用者と家族に「重度化及び看取りに関する指針」について説明し署名・押印を得ている。家族の意向を聞きながら事業所で出来る支援を行うが、医療行為の発生や食事の摂取が困難になった場合は、家族や主治医と相談し、入院など希望に添うよう努めている。身寄りのない人が亡くなった場合は職員が立ち会うなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については予め取り決めており対応出来る体制を整えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等、緊急時の対応について、連絡順等掲示し迅速に対応出来るような体制を敷いている	年2回火災想定避難訓練(日中想定・夜間想定各1回)を1階の介護付き有料老人ホームと合同で消防署の指導(1回)を受け実施している。市との「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」に基づき、災害時には地域に住む介護度の高い高齢者や障がい者の避難場所として受け入れるなど、地域との協力体制を構築している。食料、水、ポータブル、ランタン等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自の居室に出入りの際の丁寧な声掛け、各人の性格などに配慮した対応を心掛けている	職員は利用者一人ひとりの人格や考えを損ねない言葉かけに心がけ、丁寧な言葉を用いている。プライバシーにも配慮し、トイレ誘導時は耳元でさりげなく声掛けし、尊厳を損ねないよう努めている。個人情報事務所内の外から見えない施設できる場所で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人的な物品の買入れの際は本人の好みを優先して考慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	楽しみごとについては予め職員が用意を手伝うが、参加を強要せず各々の意思を尊重し、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては各人に任せ、出来ていないところだけ職員が本人と話し合っ手伝っている		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳に参加を促し、主食副食は当人に適した形状で提供している	献立は法人本部で作成し、食材も委託した業者から届けられる。調理は職員が行い、利用者は能力に応じ、配膳や片付けなどを行っている。季節に合わせてタケノコ、カボチャや家族などから差し入れの果物が食卓を飾り。誕生日には、寿司など利用者の希望に合わせた食材に変更するなど食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状態に応じて、偏り無く摂るよう都度促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時など声掛けて口腔ケアを促し、不十分な方には、他者の目を気にせず支援を受けられるよう配慮している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに向かう間隔を見てトイレを促したり車椅子を利用している方も出来る限り自力で済ませることが出来るように応じている	排泄チェック表を活用し、表情や態度に気をつけながらさりげなく声かけてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。能力に応じて紙パンツ、パッド類を使い分け、夜のみオムツを利用する場合もある。夜中のトイレ行動に備え必要に応じてセンサーを使用し利用者の安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調や普段の排泄のパターンを把握して下剤等の調整を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通院予定などを考慮し、その日の気分によって予定を柔軟に調整出来ている	週2回の入浴を基本とし、希望に応じて毎日入浴を楽しむこともできる。最初の入浴者が数種類の用意された入浴剤から好みのものを選ぶことができる。希望により同性介助にも対応し、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後、必要に応じて自室に誘導して臥床して休めるよう支援できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を忘れたり他者の薬の誤薬防止策を実践している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や洗濯物の片付け等に都度声掛けて誘っている		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の配置の問題もあり日常的には出来ないが、家族と連絡を取り、家族との外出の機会を持つように考慮している	コロナ禍のため外出の機会が少なくなっているが、天気の良い日には町内を散歩したり、住宅街の庭の花や樹々を見たり、玄関前のベンチでの日光浴を楽しんでいる。職員と一緒に買い物に行ったり、又、家族と一緒に買い物や食事なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて用意して、買い物に同行する機会を設けている(病院受診の帰りと言った機会に行っている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴えに応じて家族に電話を繋いで会話出来る支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や天候に合わせてこまめに調整している	居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、明るい室内は温度、湿度、音が配慮され、ゆったりと過ごせるようにソファが配置され、ソファに寝転んでテレビを見たいという利用者のために、テレビを見れる場所を2カ所設けるなど利用者が快適に過ごせるよう配慮している。壁にはぬり絵など利用者の作品やクリスマスの貼り得など季節の飾りつけをして家庭的な雰囲気の中で、利用者はラジオ体操を行ったり、ぬり絵、計算ドリル、縫物を楽しむなど居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル席に適度な距離を置けるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた小物類を持ってきてもらい、違和感を最小限にするように図っている	洗面台が備え付けられ、利用者は使い慣れたペットやタンス、テレビなど好みのものを持ち込み、家族の写真や塗り絵、刺繍の自作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行、記憶力に不安のある方が迷ったり、転落するのを防止するためトイレや自室の戸に名前を掲示し、階段などの危険を伴う場所に至る通路にセンサーをセットして事故防止策を打っている		